

# 郷土かわらばん

## 流山の富士信仰

平成二十五年（二〇一三）、日本最高峰の富

士山が「富士山信仰の対象と芸術の源泉」として、ユネスコ世界遺産委員会から世界文化遺産に認定されました。世界遺産の範囲は、富士山のほか、信仰は跡碑、神社、登山道など、構成資産は静岡・山梨両県の二十五件に及んでいます。

人々は古くから富士山を敬い、信仰の対象としていました。特に江戸時代に入ると、「富士講」が流行し、信仰目的で登山する一般人が増加します。一方で、多くの人々にとって、富士山へ登ることが難しかったため、江戸時代中期以降、関東地方を中心に「富士塚」という富士山を見立てた山を築きました。富士塚に登頂することで同じ功徳を得ようとする信仰が広がっ

ていきます。富士塚の多くは、富士山の溶岩で造られ、頂上には浅間神社や碑が建てられています。

今号では、流山にある富士塚や信仰について調べていきます。

### 浅間神社（せんげんじんじや）

流山一丁目 流山駅から徒歩約三分

浅間神社は江戸時代の初め、根郷地域の鎮守として、正保元年（一六四四）に創建されたと伝えられています。祭神は木花開耶姫命（このはなさくやびめのみこと）富士山浅間神社本宮の祭神）です。安産・子育て・縁結び・夫婦円満・火伏せのご利益があるとされ、今も人々に敬われています。

本殿の裏手には県内トップクラスの規模を誇る富士塚があります（約六メートル）。この塚は、

森の図書館  
X  
@N\_morin  
oto



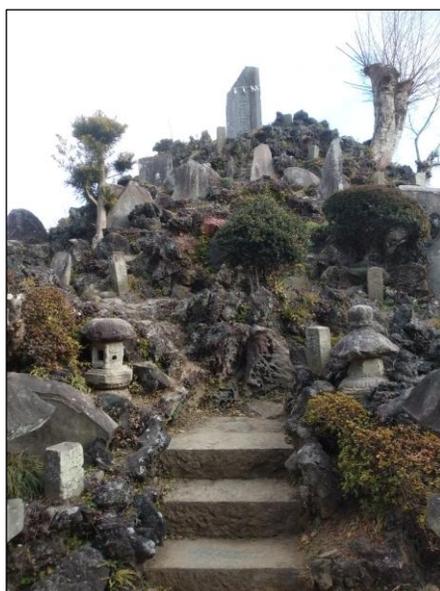
発行  
流山市立  
森の図書館  
指定管理者  
株式会社  
すばる

富士山の溶岩（本物の噴火ボク石）を使ってできています。「六根清浄 お山は晴天」と唱えながら、この富士塚の頂上にまで登ると、富士山に登った同じ気持ち・効果・ご利益が得られるとされています。「六根清浄 お山は晴天」の「六根」とは、私たちの眼、耳、鼻、舌、身、意を指し、「清浄」とは、清らかになる、澄ませるという意味で、一步一步踏みしめながら山を登り、山の懐深く入ることにより清められる、全身を清らかにするという意味があるそうです。頂上には、明治十九年（一八八六）「富士浅間大神」の碑をはじめ、中腹には富士信仰に関連する石造物が建てられ、登山道には、一合目から二合目、三合目・・・と頂上に至るまでの石塔が造られています。

七月一週目の土・日曜には、例大祭が行われます。

富士塚 流山市指定有形文化財

昭和六十二年六月四日指定



「浅間神社」の富士塚

## 駒形神社（こまがたじんじや）

東深井 運河駅から徒歩約四分

駒形神社は室町時代、応永六年（一三九九）に建立された神社（平成十年再建）で、祭神は誉田別尊（ホンダワケノミコト）です。江戸時代、この一帯には幕府の馬の牧場である小金牧が設置されていました。御社伝には、八幡太郎源義家公が奥州出陣の折りに立ち寄り、愛馬を繋ぎ憩われたとされる椋むく（の）木がありその後裔が、鳥居左手に残されています。

す。富士塚は、もともと旧県道に近い場所にありましたが、現在は本殿裏左手に移築されています。塚には、明治二十年（一八八七）に建てられた碑のほか、大正二年（一九一三）、昭和八年（一九三三）の登山記念碑が建っています。



「駒形神社」の富士塚

## 浅間様（せんげんさま）

西深井 運河駅から徒歩約十五分

西深井小学校の脇にある神社です。塚の頂上には、浅間大神の石塔（明治十六年一八八三）のほか食行身祿（富士講の講祖）などの石塔があります。

このほか、市内の神社には富士山信仰を示す石碑をみることができます。



「浅間様」の富士塚

### 参考文献

- ・ 『流山市史 文化財編』 流山市立博物館／編 流山市教育委員会 1992年
  - ・ 『こんにちは流山 新100か所めぐりガイド』 流山市経済環境部商工課 1997年
  - ・ 『文化財が語る日本の歴史』 會田 康範／編 下山忍／編 島村圭一／編 雄山閣 2022年
  - ・ 『流山の史跡をあるく』 田村哲三／著 図書出版みぎわ 2024年
- いずれも流山市立図書館の所蔵資料です。  
協力・流山市立博物館